

令和8年熊本地震に係る  
第18回政府非常災害現地対策本部会議  
第25回災害対策本部会議 議事録

日時：令和8年8月19日（水）16：00～

会場：県庁防災センター2階 災害対策本部会議室

1 開会

2 議事

（1）今後の気象の見通し

- ・別紙「気象台資料」により説明（熊本地方気象台）

（2）県からの報告

- ・別紙「各部説明資料」により説明（各部長等）

（3）国からの報告

- ・別紙「国資料」により説明（農水省、経産省、国交省、防衛省）
- ・木村知事からのコメント（お願い）。

一点目は、県の土木部からの報告であった公営住宅での被災者受け入れについて、国家公務員住宅での受付開始や受入する県営住宅の追加に加えて、市町村営住宅でも受入を行っている。危機管理課から報告のあったとおり罹災証明がどんどん発行されている状況であり、仮設住宅に入るか、みなし仮設に入るか、公営住宅に行くかと皆様考えだすところである。県内の県営住宅では29戸の内8戸しか埋まっていないため、県土木部の住宅課においては、公務員宿舎や各市町村と連携して、被災者の方に各公営住宅の空き情報が一元的に分かり、確実に被災者の人に届くような工夫を一両日中に考えていただきたい。

二点目は、国交省様から報告いただいた、八代港において貨物船が利用可能な岸壁が2バース増えたことについては大変ありがたく感謝申し上げる。自衛隊、海上保安庁等、様々な船が利用していただいていることは大変ありがたいことだが、一方でそろそろ経済を動かしていかなければならない。八代港は全国二位の木材輸出拠点で、現在搬出したい木材が大量に取り残されている状況であるため、県の農林水産部は県土木部、そして国交省と連携して、早く木材船が入るような調整を開始していただきたい。

3 災害対策本部長（木村知事）からのコメント  
別紙「本部長（知事）コメント」のとおり

4 現地対策本部長（津島副大臣）からのコメント

暑い日が続いている中で我々の復興に向けた支援が、一つ一つ実を結びつつあると思っている。色々疲れも溜まってくるかと思うが、どうか体に気をつけて、しかし気持ちは被災者のために思いを一つに、これからも頑張って参りたい。有明高校の戦いぶりは、多くの県民に勇気を与えたものと私は思っている。大変惜しく紙一重の勝負であったが、彼らをはじめとする熊本県にいる10代が、これからの地震からの復興とその復興後の熊本県の未来を背負う宝である。そしてその後に10代以下の子どもたちがいる。延々と続く熊本県の歴史をこれから紡いでいく。彼ら彼女たちの未来へと希望をつくっていく。そのことも我々の使命だろうと、そう思うところである。有明高校野球部の皆様、そして応援に当たった皆様に本当に心から感謝を申し上げますとともに、ともにみんなで未来を切り開いていく、そういう思いを共有したい。

私から国の取り組みについていくつかご紹介をさせていただく。これまでの報告と重複することをお許しいただきたい。

まず、井戸の復旧支援についてだが、水道が未復旧である地域の井戸の復旧支援について、昨日、高市総理が木村知事からご要望をいただいた。総理からは、当日、政府非常災害対策本部において、関係省庁の大臣に対して必要となる取組を加速するよう指示をいただいた。私も八代市金剛地区の被災状況を視察し、住民の方から状況をお聞きした。被災地では様々なご苦労があるが、今回理容店を営んでいる方からお話を伺った。生業を再開し、水もなくともどうにかやろうという工夫を凝らしながらも、しかし本格的なお店の再開はできないという状況もあった。こうした状況を踏まえて、国、県、市とさく井協会が連携した井戸水支援チームとして取組を進めてきており、本日より県による井戸の洗浄等の取組を開始したところと伺っている。現地災害対策本部としても、総理指示を踏まえ、被災地の早期復元に向け、しっかり支援して参る。

次に道路関係について、国道3号の歩道補修工事について紹介する。被災した宇城八代地域の国道3号について、これまでに車道部の補修工事を行った。今月末から新学期を迎える小中学校の児童生徒が安全に通学できるよう、本日から歩道部の補装について補修工事を集中的に実施して参る。そして、新学期を前に子供たちの心のケアをしっかりと進めるとともに、小中学生の居場所づくりにさらに力を入れて参る。

次に、中小企業支援について、激甚災害の指定に関しては、中小企業の特例について、八代市、御船町に続いて、新たに宇城市、氷川町、嘉島町についても、局激指定基準を超過する見込みが立った。指定された地域の被災中小企業、小規模事業者の資金繰りをはじめとした支援を強化して参る。事業を再開する会社や事業者も増えてくる中で、就労したいという子育て世帯の保護者の方々が安心して仕事に向かえるような保育、あるいは介護サービスの再開に邁進して参りたい。

次に、農林水産関連について、本日、八代市の昭和海岸堤防の被災状況を見て参った。八代や熊本の農業生産を支える基盤であるが、甚大な被害を受けている状況を見て参った。道路沈下、空洞化といった被害である。関係者の総力を掲げて応急対策を行い、その機能を確保している。今後、国の直轄事業として、しっかり本復旧を行って参る。被災状況の視察の後、八代市においてトマト生産を行っているトマトの部会長のお話を伺った。地震後の混乱期を越えて、今週トマトの定植にこぎつけておられる。トマトはしっかり大丈夫だ。液状化現象の影響はどうなるか分からないけれども、やるだけやってみるという力強い言葉をいただいた。引き続き、栽培に必要な水の確保に努めるとともに、被災を乗り越えて収穫されたトマト、あるいは他の農産物、これを全国で食べて応援する、そういった取組を進めていきたい。全国の皆様に熊本県産品を食べて、熊本を応援していきたい。

そして私から申し上げたいのは、いろいろ被災地を回っていると気丈に振る舞っておられる農業者の方、工業者の方、ご高齢の方、子どもたちがいる。気丈に振る舞っているから大丈夫かと思うけれども、でもやはり心は複雑なものを持っている。だからその外から見えない心の動きというものにしっかりとフォーカスして、きめ細かく支援をしていく必要があるのだと思っている。そういったことも心がけながら、できるだけ多くの方が、前向きに、一歩でも前に踏み出そうと、その気持ちになれるように、私は引き続き、政府現地対策本部長として努めて参る。共に頑張って参りましょう。